

厚生労働科学研究費補助金  
(地域医療基盤開発推進研究事業)

患者のケア移行に伴う薬剤師間の情報連携の現状課題の把握と  
その解決に向けた調査研究 (24IA002)  
分担研究報告書

「薬局における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状調査」

研究代表者	寺田智祐	京都大学	医学部附属病院	教授・薬剤部長
研究協力者	豊見 敦	公益社団法人	日本薬剤師会	常務理事
研究協力者	村杉紀明	公益社団法人	日本薬剤師会	常務理事
研究協力者	川田将義	京都大学	医学部附属病院	薬剤師
研究協力者	幾田慧子	京都大学	医学部附属病院	特定助教

研究要旨

薬局における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状を明確にし、効果的な連携体制を提案することを目的とし、日本薬剤師会に登録されている薬局に従事する薬剤師を対象に、薬剤情報連携の実施状況および課題を明らかにするため、アンケート調査を実施した。調査の結果、急性期および回復期・慢性期医療機関からの情報提供は十分でないと感じる薬局は多かったが、病院の医療関係者または福祉関係者との情報連携体制をしっかりと構築することで、入退院時の確実な薬剤情報連携が可能となることが明らかとなった。この連携体制を構築するためには、情報共有を行うための共通フォーマットの作成や、顔の見える関係性の構築に向けた定期的な研究会の実施、患者のかかりつけ薬局を把握する仕組みづくりが必要であることが示唆された。今後は、統一フォーマットや活用されているツールについて更なる調査を進め、啓発活動につなげていく予定である。

A. 研究目的

現代の医療における治療・療養の場の移行は多様化し、患者の連続的な治療と安全を確保するためには、医療従事者間での情報共有が重要となる。特に使用薬剤の管理と情報共有は、患者の安全と治療の質の

向上に直結する。医師間・看護師間においては診療情報提供書や看護サマリーによる連携が行われているが、使用薬剤についてきめ細やかな情報を共有することは困難なことも多い。薬剤師間（病院・病院間、病院・薬局間）の適切な情報共有も、マンパワーや

モチベーションなどの課題から、道半ばである。外来患者の継続的なフォローに対して「トレーシングレポート」(薬局・病院間)による連携が普及してきている。しかし、入院前や退院時など、特定のケア移行場面においては、定まった情報連携方法はなく、マンパワーやモチベーションの関連からも課題がある。地域包括ケアシステムの更なる進化のためには、多様化する患者のケア移行時において薬剤師間の情報共有について現状課題の抽出、論点整理が必要となる。

そこで本研究は、薬局における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状を明確にし、効果的な連携体制を提案することを目的とした。

## B. 研究方法

2025年9月1日から2025年10月17日までの期間に、日本薬剤師会に登録されている薬局に従事する薬剤師を対象に、薬剤情報連携の実施状況および課題を明らかにするため、アンケート調査を実施した。更に、病院・薬局間での薬剤情報連携について、先進的な取り組みを行っている薬局および病院薬剤師を対象に、同意を取得し、インタビュー調査を行った。アンケート調査の結果から薬剤情報連携の現状および課題を探索し、インタビュー調査の結果から薬剤情報連携の課題に対する具体的な解決策(ベストプラクティス)を探索した。アンケートおよびインタビュー調査は、研究代表者、分担研究者ならびに関連学会や行政などの有識者と議論を行い、原案を作成しその原案を用いて実施した。

主な調査項目は下記の通りとした。

- ・各薬局の基本情報および薬剤情報連携体制の現状
- ・各薬局における薬剤情報連携の課題
- ・各薬局がケア移行期に必要とする薬剤情報の種類
- ・各薬局において提供可能な薬剤情報の種類
- ・各薬局における薬剤情報連携の促進要因
- ・各ケア移行期において、薬局及び医療施設間の薬剤情報連携を促進させる因子

(倫理面への配慮)

研究実施にあたり京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け承認され(R5120)、協力研究実施施設の承諾を得て実施した。

## C. 研究結果

1. アンケート調査から示唆される薬局における薬剤情報連携の現状と課題

927施設からの回答が得られ、そのうち887施設(95.7%)から同意が得られた。常勤の薬剤師数の中央値(最小値, 最大値)は、2.5(1, 15)人であり、外来患者への調剤及び服薬指導を主な業務とする薬局は97.0%であった(図1)。患者の入院を把握できる薬局は62.2%であったが、把握できるタイミングは退院後である薬局がほとんどであった(図2)。入院前に薬局から病院に薬剤情報提供することで算定できる「服薬情報等提供料3」の算定状況は6.1%とかなり低い結果となった(図3)。患者が緊急入院した際に、入院先の病院から情報提供がある薬局は23.4%と低く、もし依頼があれば確実に情報提供可能であると回答した薬局は93.7%であった(図4)。病院からの情報

提供に対する薬局の印象は、急性期医療機関、回復期・慢性期医療機関ともに、「ほとんど行われていない」が約半数であった(図5)。情報連携で困難と感じる場面は、「情報不足」が最も多く、「投薬エラーなどの医療過誤(再開・中止忘れを含む)」につながる恐れがあるとの回答が最も多かった(図6, 7)。

情報連携を行う職種としては、退院元の病院薬剤師が最も多く、次いでケアマネジャーが多かった(図8)。薬局で用いられる薬剤情報連携ツールは「お薬手帳」が最も多く、最近導入が拡大されている「マイナポータル、オンライン資格確認システム」は127件と少なかった(図9)。薬剤情報の連携が困難と感じる場面は、「入院する予定・入院したとの情報の連絡がないこと」が最も多く、「他職種間のコミュニケーション不足」「標準化された情報伝達のフォーマットがない」ことが次いで多かった(図10)。情報連携を行う工夫としては、顔の見える関係性の構築、お薬手帳やトレーシングレポート等のツールの活用、ケアマネジャー等の職種との日常的な情報共有、かかりつけ薬局の明確化が挙げられた(図11)。薬局が提供可能な情報としては、「処方箋情報、使用中の薬剤情報」「副作用歴・アレルギー歴」「併用薬・併用療法の情報」「服薬指導内容」等が挙げられ(図12)、必要と感じている情報としては「入院中の薬歴(処方の変更、休薬、新規処方など)」が最も多く、次いで「併用薬・併用療法の情報」「副作用歴・アレルギー歴」「病名・検査値」が挙げられた(表1)。情報連携の促進に必要なこととしては「システムの導入(電子カルテや共有プラットフォーム)」が最も多く、

「情報の標準化(統一フォーマットの作成など)」「多職種連携のための定期的なミーティング」が次に多い結果となった(図13)。

## 2. インタビュー調査から見てきたベストプラクティス(表2)

・在宅業務を主に行っている薬局  
ケアマネジャーや施設担当者等の地域医療関係者との情報連携体制が構築されていることが明らかとなった。一方で病院との連携については、徐々に連携体制が構築されており、退院時の情報共有に用いる共通フォーマットの作成も行われつつあるが、連携体制構築の推進に対して病院間で差があることが課題として明らかとなった。また薬局の業務時間の観点から退院時カンファレンスへの参加が困難であること、入院時の情報取得が困難であることが明らかとなった。病院からは、薬局へ情報提供する際に、かかりつけ薬局の把握が困難であることが課題として挙げられた。

・外来調剤業務を主に行っている薬局  
服薬情報等提供料3の導入に伴い、入院前に薬局から病院へ薬剤情報提供が行われる連携体制が構築されている。更に、薬局と病院との薬剤情報連携に対する共通認識を持つために、定期的な研究会が実施されていることが明らかとなった。一方で、病院から薬局への退院に関する情報提供はまだ不十分であることが明らかとなった。

## D. 考察

薬剤師を対象としたアンケート調査およびインタビュー調査より、薬局におけるケア移行時の薬剤情報連携の現状が明らかと

なった。

回答が得られた多くの薬局では、外来患者への調剤及び服薬指導が主な業務であり、約60%の薬局で、患者の入院の情報を把握できていることが明らかとなった。しかし把握できるタイミングは退院後であることが最も多い結果となった。入院前の薬局からの情報提供は病院から依頼があれば90%以上の薬局で対応可能であると回答が得られたものの、実際に情報提供を行っている薬局は少ない。この原因としては、情報共有に用いられている主なツールがお薬手帳であり、入院時の薬局から病院へ情報提供を行う統一フォーマットおよびシステムが未整備であることが考えられる。入院時の薬局から病院への情報提供が円滑に実施されている施設では、地域の薬局と病院が定期的に研修会を行い、必要とする情報について記載できる共通のフォーマットを作成し運用している。従って、病院及び薬局で研修会などを開催し、病院および薬局双方が必要とする情報を網羅できる情報共有フォーマットを作成し、地域医療連携ネットワークサービス等の地域の医療施設をつなぐ電子ツールを活用し、効率的に情報提供を行っていくことが重要であると考えられる。

在宅業務を主に行っている薬局では、ケアマネジャーや、施設担当者等の医療ソーシャルワーカーと信頼関係を構築し、薬剤情報連携を円滑に行っていることが明らかとなった。このことから、在宅医療においてケアマネジャーや、施設担当者等の医療ソーシャルワーカーが、薬剤情報連携を円滑に行うカギとなる職種であることが考えられる。

退院時の病院との薬剤情報連携について

は、病院間で差があり、情報提供が十分に行えていない印象を持つ薬局が多いことが明らかとなった。課題の一つとして病院で行われる退院時カンファレンスへの参加が困難であることが挙げられた。しかし、病院側からは、患者のかかりつけ薬局が不明確であるため、退院時カンファレンスへの参加呼びかけが難しいとの声が上がっている。この問題を解決するためには、研修会の開催など、病院薬剤師と薬局薬剤師が定期的に直接コミュニケーションをとる場を設けること、地域の医療施設を電子的につなぐネットワークシステム等の開発および普及が重要であると考えられる。しかし、薬局は特定の病院とだけではなく複数の病院と情報連携を行わなければならない。従って、各病院で情報共有システムの開発を行うと、薬局で情報連携をする際に負担となる可能性がある。地域の薬剤情報連携をどのように統一化を図っていくかについても今後の検討課題として考えられるのではないかと。

## E. 結論

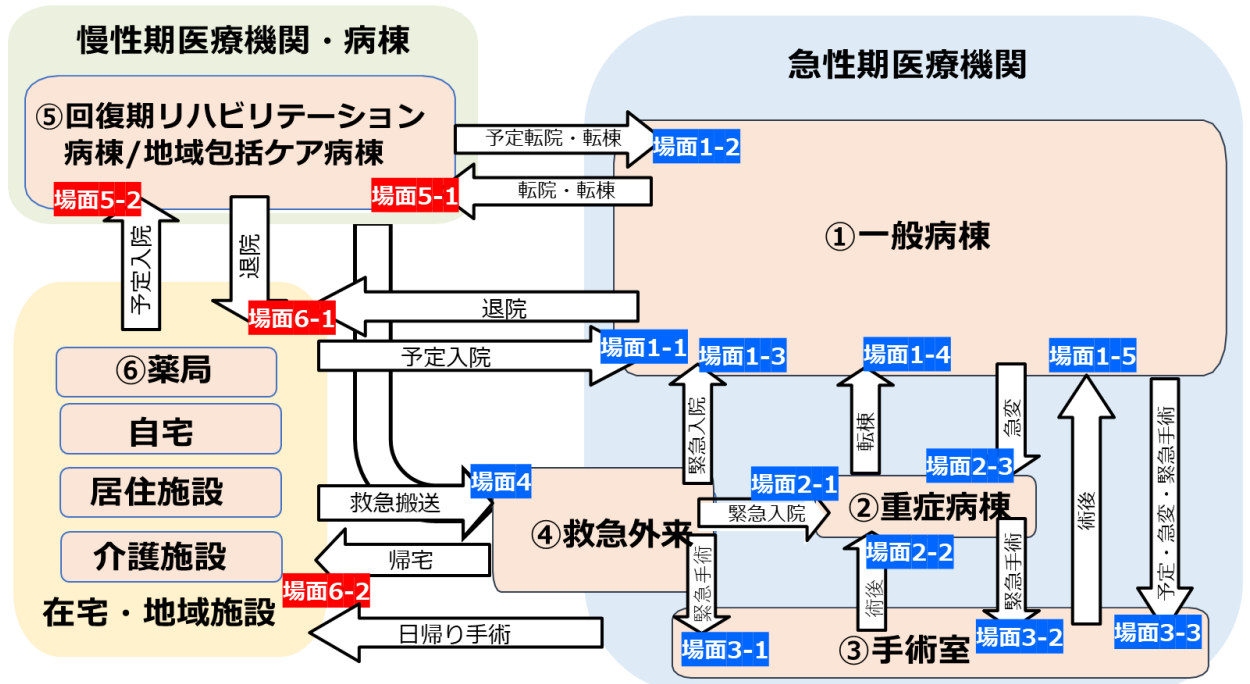
急性期および回復期・慢性期医療機関からの情報提供は十分でないと感じる薬局は多かったが、病院の医療関係者または福祉関係者との情報連携体制をしっかりと構築することで、入退院時の確実な薬剤情報連携が可能となることが明らかとなった。この連携体制を構築するためには、情報共有を行うための共通フォーマットの作成や、顔の見える関係性の構築に向けた定期的な研究会の実施、患者のかかりつけ薬局を把握する仕組み作りなどが必要であることが示唆された。

F. 研究発表  
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況  
なし

# ケア移行時における薬剤情報の連携に関する実態調査

## ケア移行場面（アンケート調査）



(薬局) 場面 5-2、 6-1、 6-2

## ケア移行時における薬剤情報の連携に関する実態調査 (薬局薬剤師対象)

目的：本アンケートは、ケア移行時における薬剤情報の連携について、現状の課題や必要とされる改善点を把握することを目的としています。共有すべき情報、情報提供のタイミングと手段について、**ケア移行場面毎に患者を受け入れる立場**として回答してください。

### 0. アンケート回答への同意

説明文をよく読み、研究の参加に同意します

### I. 回答者の属性に関するアンケート

1. 薬局がある都道府県を教えてください。

( )

2. 現在の勤務先の薬剤師数をお答えください（：常勤換算）

( ) 人

3. 薬剤師の平均経験年数と現在の勤務先の平均在籍年数をお答えください

薬剤師経験年数 ( ) 年

現在の勤務先の在籍年数 ( ) 年

4. 現在担当されている主な業務をお答えください（複数回答可）

調剤

服薬指導（外来）

訪問薬剤管理指導（在宅）

その他 ( )

5. 調剤業務など薬剤師業務を補助する事務員は雇用していますか？

雇用していない

雇用している ( ) 人（：常勤換算）

6. 患者が入院していたことを、どのタイミングで把握する場合がありますか？

入院前

入院中

退院後

把握できないことが多い

7. 服薬情報等提供料3をどれくらい算定されていますか。

( ) 件/月

8. 患者が緊急入院した際に、その病院から薬剤情報提供依頼が来る頻度はどれくらいですか？

( ) 件/月

ない

9. その依頼のうち、対応できる割合はどれくらいですか？

(            ) %

10. 退院時共同指導料（1または2）の算定状況を教えてください。

(            ) 件/月

ない

## II. ケア移行時の薬剤情報連携に関するアンケート

### 1. 現状の連携体制について

1. 現在、ケア移行時における薬剤情報の提供・共有はどの程度実施されていますか？（ケアマネージャーなど薬剤師以外からの情報提供・共有も含みます）

#### ▼急性期医療機関からの退院の場合

- 十分に行われている（80%以上）
- 行われている（60%以上 80%未満）
- 一部で行われている（30%以上 60%未満）
- ほとんど行われていない（10%以上 30%未満）
- 行われていない（10%未満）

#### ▼慢性期・回復期医療機関からの退院の場合

- 十分に行われている（80%以上）
- 行われている（60%以上 80%未満）
- 一部で行われている（30%以上 60%未満）
- ほとんど行われていない（10%以上 30%未満）
- 行われていない（10%未満）

2. 薬剤情報の提供・共有はどの職種から行われますか？

- 退院元の病院薬剤師
- 退院元の入退院センターに勤務する医療者
- ケアマネージャー
- 施設担当者
- その他（                    ）

3. 薬剤情報の共有を行う際、どのようなツールや方法が使用されていますか？（複数選択可）

（急性期）（慢性期）

- 書面（紙媒体）
- 電子カルテ
- FAX
- メール
- 口頭（電話や対面での連絡）
- その他（具体的にご記入ください： \_\_\_\_\_）

4. 情報共有で困難だと感じる場面をお答えください。

(急性期) (慢性期)

- |                          |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 情報不足                     |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | タイムラグの発生                 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 形式の統一性欠如                 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | その他 (具体的にご記入ください: _____) |

5. 情報共有がスムーズに行われない場合、どのような影響がありますか？

(急性期) (慢性期)

- |                          |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 投薬エラーなどの医療過誤             |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 治療の遅延                    |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 患者の不安増大                  |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | その他 (具体的にご記入ください: _____) |

6. 連携が取れていると感じる場合、それはどのような体制や工夫によるものですか？ (自由記述)

▼急性期医療機関からの退院の場合

▼慢性期・回復期医療機関からの退院の場合

## 2. 実施できている/できていない理由

1. 薬剤情報の共有が難しいと感じる理由は何ですか？ (複数選択可)

(急性期) (慢性期)

- |                          |                          |                           |
|--------------------------|--------------------------|---------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 情報共有のための時間不足              |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 情報共有先の連絡手段や連絡先が不明         |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 情報提供のためのツールやシステムが整備されていない |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 他職種間のコミュニケーション不足          |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 情報の正確性や信頼性に対する懸念          |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 法律や規制による制約                |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | その他 (具体的にご記入ください: _____)  |

2. 逆に、薬剤情報の共有がスムーズに行えている場合、その理由は何ですか？

(自由記述)

▼急性期医療機関からの退院の場合

▼慢性期・回復期医療機関からの退院の場合

## III. ケア移行時の情報提供の有用性

入院時や療養場所の変更といったケア移行時の情報共有が「薬学的に有用であった経験」を教えてください。

▼急性期医療機関の場合

- ケア移行後の調剤に役立った（一包化や剤形選択など）
- 処方監査に役立った（処方ミスの是正、患者個別の最適化処方への変更など）
- 残薬解消に役立った
- 患者のセルフケア支援に役立った（患者の病識や薬識向上、生活習慣改善、血圧や体重測定などの行動変容など）

▼慢性期・回復期医療機関の場合

- ケア移行後の調剤に役立った（一包化や剤形選択など）
- 処方監査に役立った（処方ミスの是正、患者個別の最適化処方への変更など）
- 残薬解消に役立った
- 患者のセルフケア支援に役立った（患者の病識や薬識向上、生活習慣改善、血圧や体重測定などの行動変容など）

#### IV. 提供できる情報と必要な情報

1. 現在、あなたの職種や機関で提供可能な薬剤情報にはどのようなものがありますか？（複数選択可）

- 処方箋情報・使用中の薬剤情報
- 服薬指導内容
- 副作用歴・アレルギー歴
- 併用薬・併用療法の情報
- 病名
- 検査値
- 服薬アドヒアランス
- 退院後の予定管理者
- 介助が必要な薬剤情報
- 患者の管理方法
- 服薬管理上の問題点
- 服薬時の工夫
- 患者の生活面に関する情報（ADL、自宅・生活環境など）
- その他（具体的にご記入ください：\_\_\_\_\_）

2. ケア移行時に、あなたが「必要」と感じる薬剤情報はどのようなものですか？  
必要と思われる情報を選択し、優先順位をつけて上位5つ選択してください。  
処方箋情報はすでに受け取っていると仮定してご回答ください。

（急性期）（慢性期）

- |                          |                          |                         |
|--------------------------|--------------------------|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 入院中の薬歴（処方の変更、休薬、新規処方など） |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 服薬指導内容                  |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 副作用歴・アレルギー歴             |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 併用薬・併用療法の情報             |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 病名                      |

- |                          |                          |                             |
|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 検査値                         |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 服薬アドヒアランス                   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 退院後の予定管理者                   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 介助が必要な薬剤情報                  |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 患者の管理方法                     |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 服薬管理上の問題点                   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 服薬時の工夫                      |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 患者の生活面に関する情報（ADL、自宅の生活環境など） |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | その他（具体的にご記入ください：_____）      |

3. 現在不足していると感じる情報や課題があれば教えてください。（自由記述）

▼急性期医療機関からの退院の場合

▼慢性期・回復期医療機関からの退院の場合

## V. 改善に向けて

1. ケア移行時における薬剤情報の連携を改善するために必要だと考えることを教えてください。

- システムの導入(電子カルテや共有プラットフォーム)
- 多職種連携のための定期的なミーティング
- 情報の標準化（統一フォーマットの作成など）
- 教育や研修の充実
- その他（具体的にご記入ください：\_\_\_\_\_）

2. その他、ご意見やご要望があればご自由にお書きください。（自由記述）

## ケア移行時における薬剤関連情報の連携に関するインタビュー調査

### 1. 情報連携の状況

- 1-1 ケア移行のどの場面で情報連携を行っているか
- 1-2 誰と誰が連携しているか
- 1-3 情報連携ができていない理由
- 1-4 情報連携を行うために何か工夫しているか
- 1-5 情報連携ができていないケア移行の場面がある場合、その理由
- 1-6 今後、情報連携を行うために必要な条件

### 2. 情報連携の内容

- 2-1 情報連携のためにどのようなツールを使用しているか
- 2-2 どのような情報を提供しているか
- 2-3 どのような情報を必要としているか
- 2-4 必要としている情報が提供されているか
- 2-5 お互いにどのような情報が必要か、連携相手と確認できているか
- 2-5 医療 DX が進んでも、引き続き連携が必要な情報はありますか

### 3. 情報連携の効果

- 3-1 情報連携により、どのような取り組みにつながったか
- 3-2 その取り組みにより、どのような患者アウトカムが得られたか
- 3-3 情報連携により、業務が効率化されたか
- 3-4 情報連携により、医師の負担軽減につながったか
- 3-5 情報連携に関して、他職種からの評価はどうか

薬局薬剤師を対象としたアンケート調査結果

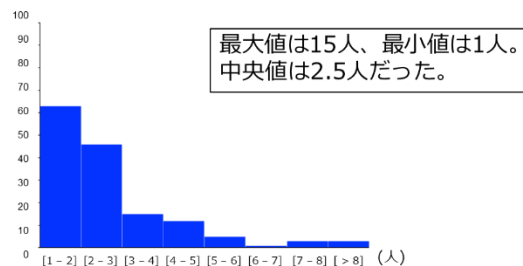
図1.回答した薬局の属性

## 回答者の属性

### 1-1.薬局がある都道府県



### 1-2.常勤の薬剤師数



### 1-3.薬局の主な業務

回答施設のうち95.7%が同意。  
(887/927施設)

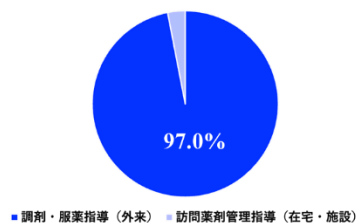


図2, 患者が入院したことを薬局が知るタイミングとその割合

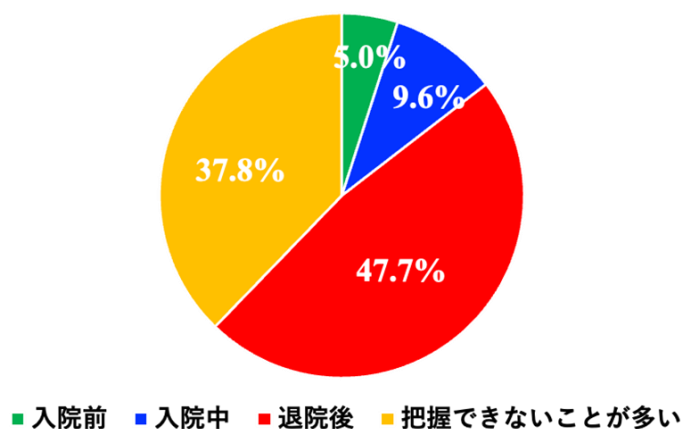


図3.服薬情報等提供料3の算定状況（直近の月）

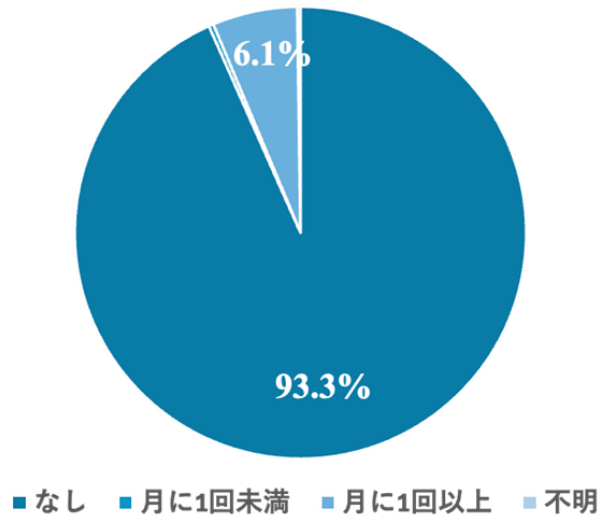
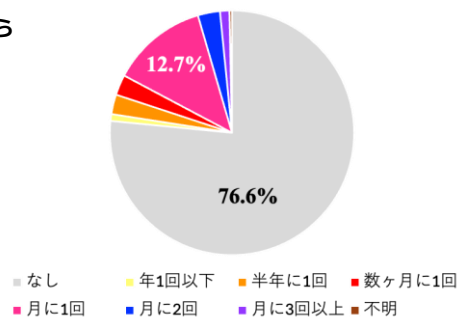


図4.患者の緊急入院時の薬剤情報連携の状況

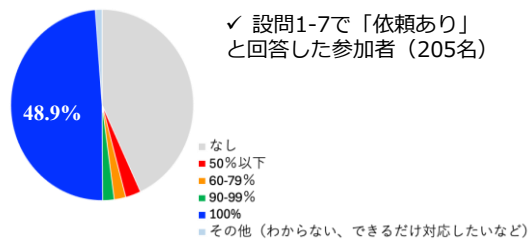
4-1.患者が緊急入院した際に、入院先の病院から薬剤情報提供依頼がくる頻度



4-2.その依頼に対応できる割合

（設問1-7で「0件/月」と回答した人のうち、「もしあれば〇%」と回答した方が一定数含まれている）

✓ 全回答者（587名）



✓ 設問1-7で「依頼あり」と回答した参加者（205名）

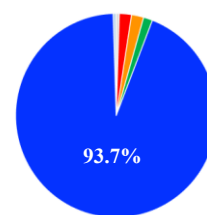


図 5, 薬剤情報連携の実施状況に関する印象

✓ 急性期医療機関からの退院の場合

✓ 慢性期・回復期医療機関からの退院の場合

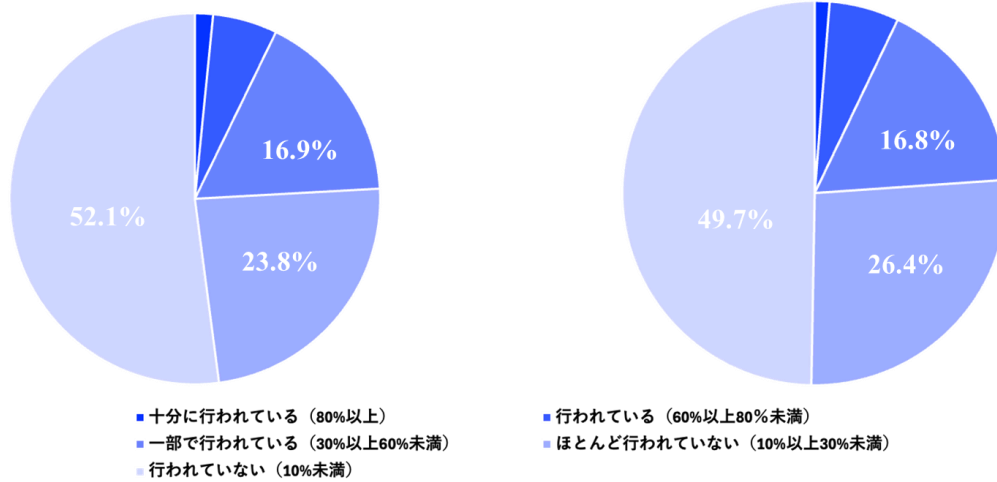


図6.薬剤情報連携が困難と感じる場面とその割合

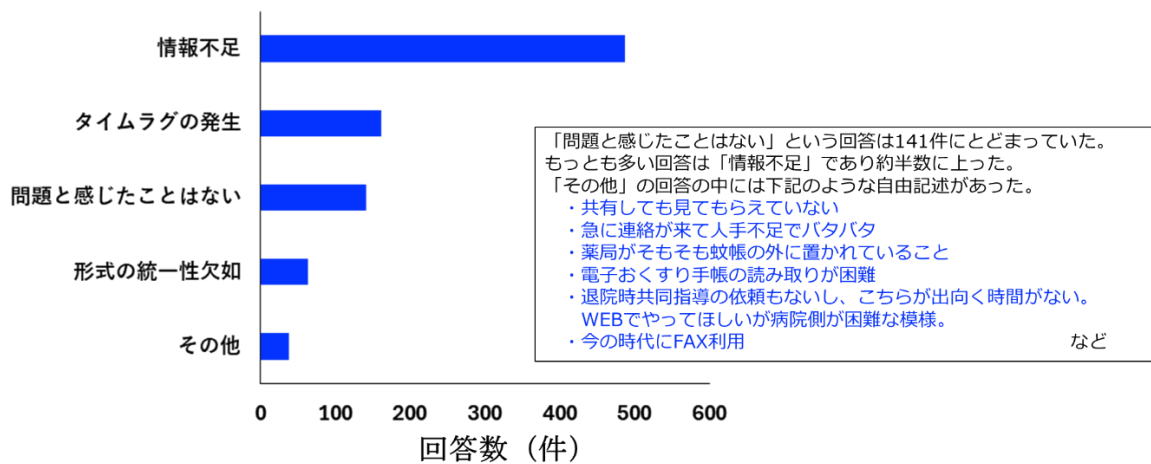
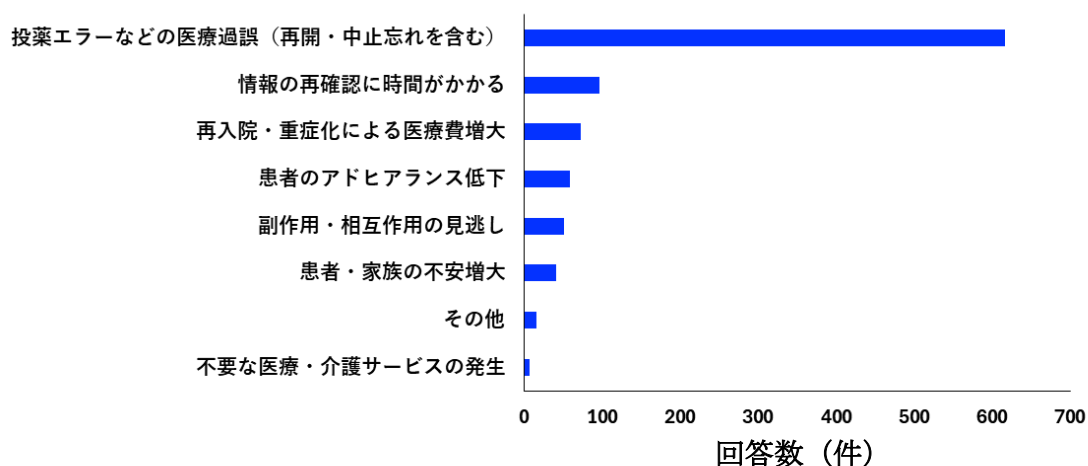


図7.薬剤情報連携不足が及ぼす影響



「その他」の回答の中には下記のような自由記述があった。

- ・入院中変更になった薬剤内容に地域かかりつけ医が紹介状に則った内容にせず、入院前の処方に戻してしまうため情報共有の意味がなさない
- ・連絡があったものの、何をしようのか？何をしようしてほしいのか？がわからずただ、連絡待ち
- ・出荷規制の薬剤が未だに多い中、薬を準備するのに時間を要したり、入荷できない場合の処方変更依頼が大変。
- ・現在入院時には持参薬はほぼ服用されず、退院時には退院時処方が出る為に不必要な残薬が生じる事が多々ある。
- ・選択肢がネガティブなものばかりだが、ネガティブな影響を感じたことは無い。情報共有することでポジティブな影響はあると思う。

図8.薬剤情報連携を行う主な職種

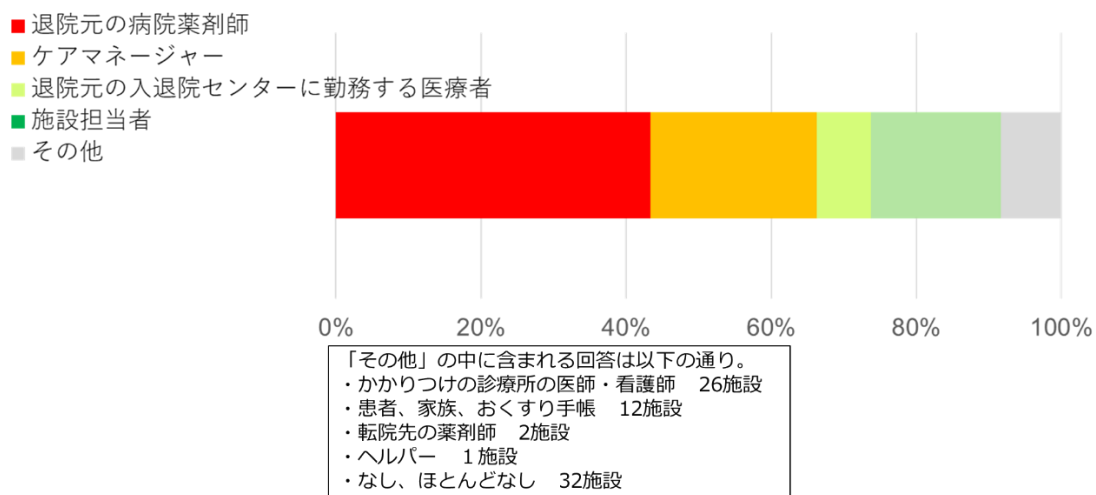


図9. 薬剤情報連携に使用するツール

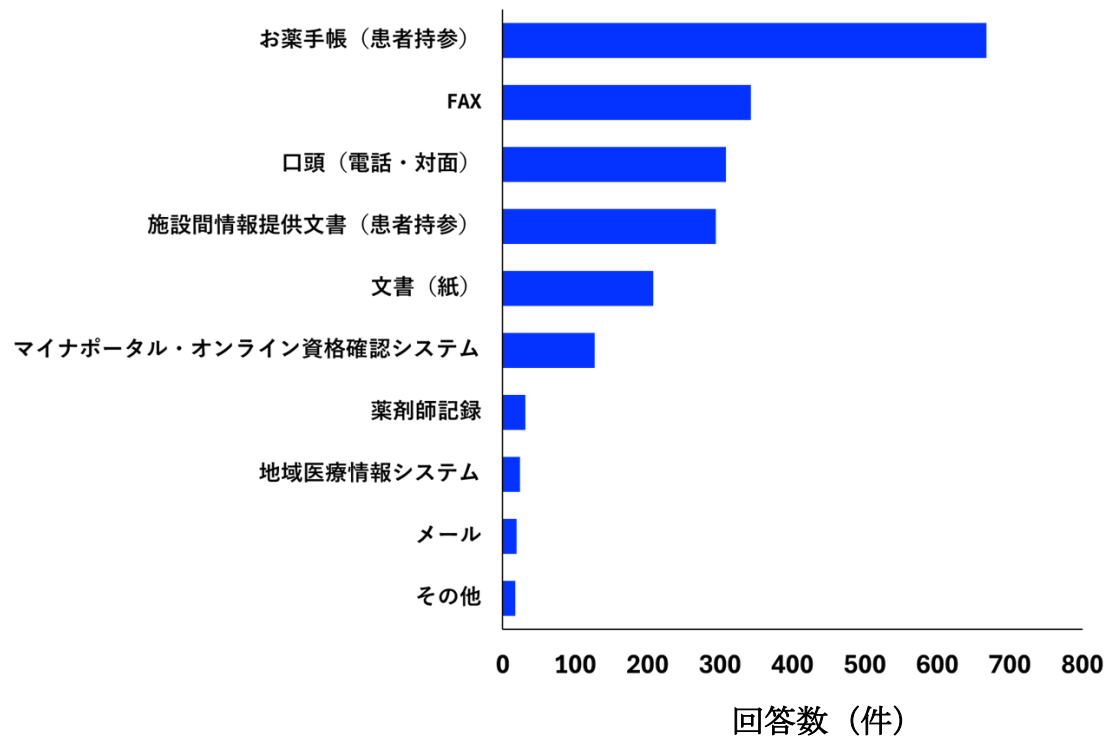


図10. 薬剤情報連携が困難と感じる場面

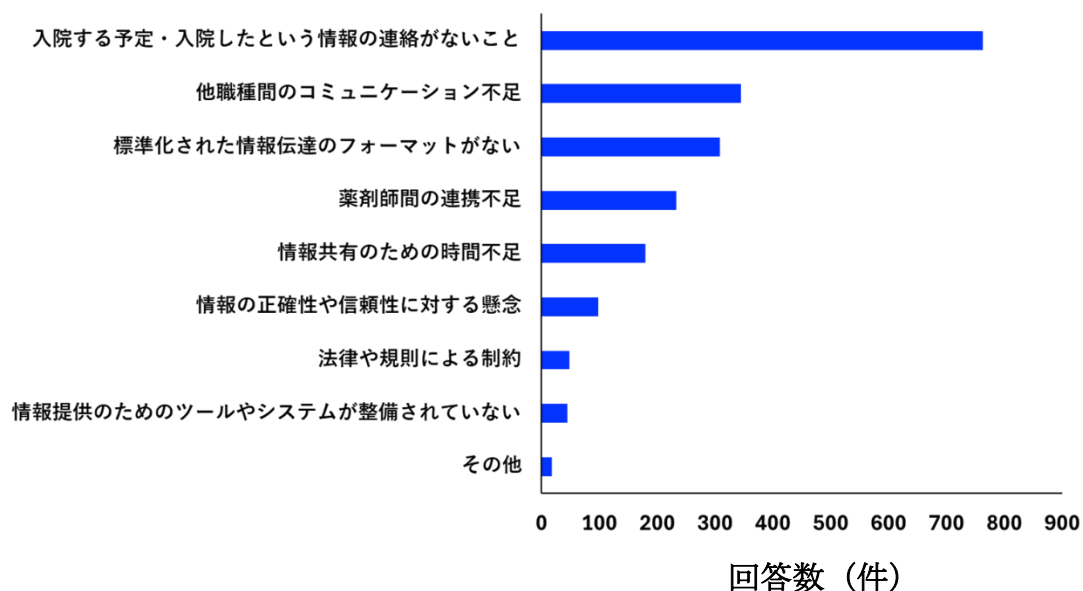


図11.薬剤情報連携の促進要因

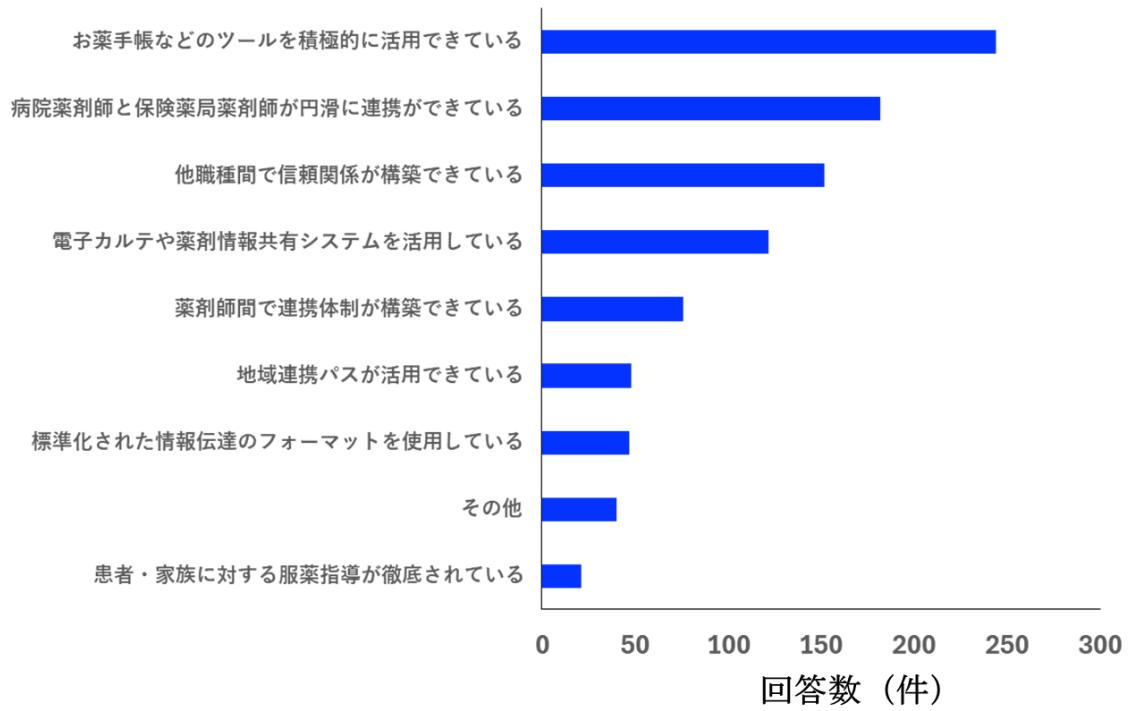


図12.薬局が提供可能な薬剤情報

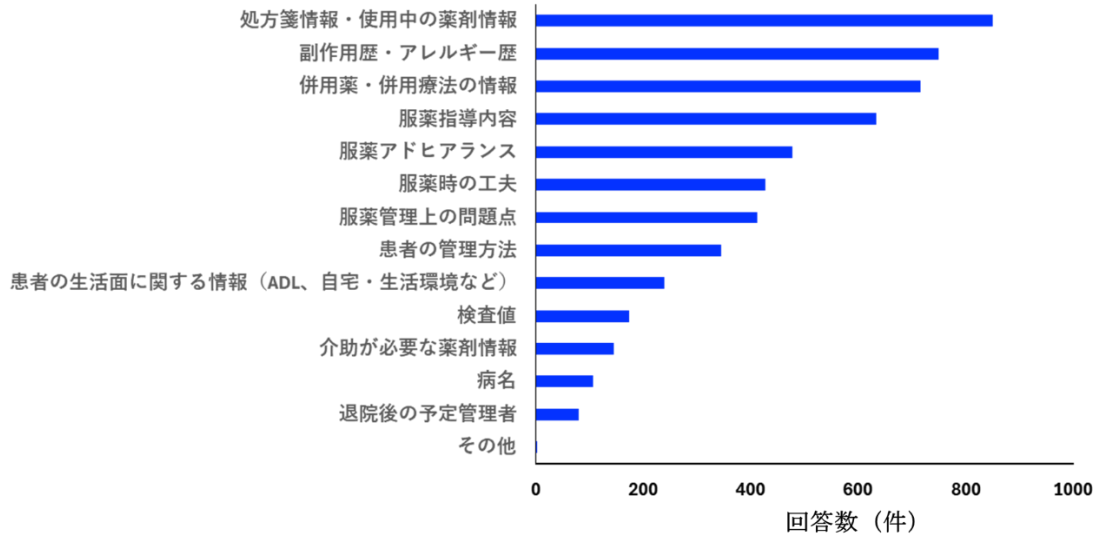


表1.薬局が必要とする薬剤情報の種類

	1位	2位	3位
入院中の薬歴（処方の変更、休薬、新規処方など）	703	64	38
副作用歴・アレルギー歴	46	147	115
病名	44	106	93
併用薬・併用療法の情報	32	212	150
服薬管理上の問題点	14	51	73
服薬指導内容	11	97	72
患者の生活面に関する情報（ADL、自宅の生活環境など）	9	34	71
患者の管理方法	7	31	31
服薬アドヒアランス	6	19	17
退院後の予定管理者	5	27	63
介助が必要な薬剤情報	4	14	27
服薬時の工夫	2	34	31
検査値	2	49	102
その他	2	2	4

図13. 薬剤情報連携を促進するための改善策

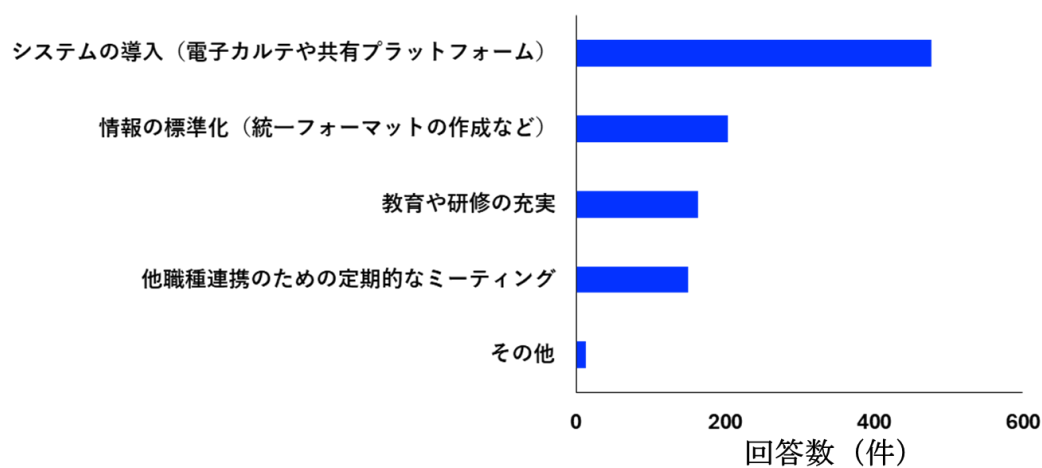


表2.インタビュー調査から明らかとなった薬局における薬剤情報連携のベストプラクティス事例

薬局の特徴	ベストプラクティス	課題
主) 個人在宅業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネージャー等の情報連携体制が構築されている</li> <li>病院とも連携体制が構築されつつあり、退院時の情報共有も共通フォーマットを作成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退院時カンファレンスに参加しづらい</li> <li>連携体制の構築に各病院で差がある</li> <li>緊急入院時の情報提供が困難</li> </ul>
主) 施設在宅業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネージャーや施設担当者との連携体制が構築されている</li> <li>連携体制に関する話し合いが定期的に行われている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院からかかりつけ薬局を把握することが困難</li> <li>退院時カンファレンスに参加したい</li> <li>入院することの情報取得が困難</li> </ul>
主) 外来調剤業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院前に薬局から病院へ情報提供がされる連携体制が構築されている</li> <li>病院と定期的な研修会を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院から薬局への退院に関する情報提供については不十分</li> </ul>